哲学Ⅰ（月３）シケプリ２　　２００９夏学期

1. 現象学の展開

* **フッサール**…現象学の創始者

対象を構成する「意識」の反省←カントの認識論に似た考え方

　　　　　　　体験１　→

　　私　————　体験２　→　————————————→同一の対象

（純粋自我）　体験３　→　　＜志向性＞

　　　　　　　　⇧

　　　（ex タバコの缶の表面・側面・裏面）

　　意識の作用（能動的）→対象を構成する

　　　　　　　　　　　　　（志向的体験）

他者（他我）も意識の作用が構成

・他者を理解する時、まず身体を把握

　「私」の身体と類似した外的物体→「私」と他の世界を持つ身体

・他者の心の理解は感情移入による

　（私の身体）　　　　　　　　　　　　　　　　　（他の世界を持つ身体）

　　心の領域　　　　　————————————————————————→　　　心の領域

…欲望・信念・思考　　　　　＜感情移入＞

○感情移入　　enfuhlung（ドイツ語）,empathy

(英語に直すとen=in fuhlung=feel)

　…記号・外的に示されたものに感情を移し入れる（過去の人物の伝記など）

（フッサール以前）ディルタイ

　　　　　　　　　…他者の体験　——　（外的）表現　——　理解（感情移入）

　・他者の「身体」の意味構成の後に感情移入が生じる

根源的呈示…現前している（見えている）

　←「私」の心、他者の身体…直接把握できる

付帯現前…現前しているものに付帯（感情移入によって見える）

　←他者の心…間接的に把握する

　○　意識　　｜　　外的事物

　　　　　　　　　　　超越（意識とは無関係に存在）

「外的事象は必ず実在する」という判断を停止→現象学的還元

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（エポケー）

＜外的事象を認識するプロセス＞

（志向性→ノエシス・ノエマに分けられる）

　ノエシス（意識の作用）が意味付与

　　　　　　　　→　　ヒュレー（感覚的所与）

　　　　　　　　　　　　　…色・立体など　　　⇒　ノエマ（意味）

* このプロセスで外的事象を内在的超越として得る事が可能になる

「物自体」も意識が構成している

* **ハイデガー**…現象学と解釈学の統合をめざした

　　　　　　 実存主義・思想の代表的な哲学者

　　　　　　（ハイデガー自身はそう呼ばれる事を拒否）

現存在…我々がそれであるところの存在者＝我々人間の存在のあり方

実存…現存在が何らかの仕方で関わっている存在

＜現存在＞

　自己を理解 →実存から…自己自身から⇒本来的

　　　　　　　　　　 　…自己自身ででない可能性（世間）から⇒非本来的

　世間（世人）das Man …　匿名の他者・責任が不明確

　世間的自己 Man selbst … 「ひとは…する、…と言う」 Man sagt dass

　（they say that）

　　　　　　　　　　　　　世間に従う→非本来的なあり方

　　　↑

　　　↓

　本来的自己 …　＜実現するためには＞

　　　　　　　　　先駆的決意性（自らの非力さ・被投的根拠の自負）

　　　　　　　　 自己の有限性の自負

　　　　　　　　 （有限性→有意義性・可能性の根拠）

　　　　　　　　　　　　　（cf 新約聖書「貧しき者は幸いなるかな」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　貧しさ＝心の貧しさ→神への信頼）

ハイデガーの「自己」…永遠性の否定

　　　　　　　　　　（→西欧の伝統的な考え方に対するアンチテーゼ）

* **サルトル**

「実存主義とはヒューマニズムである」→第二次世界大戦後の実存主義の流行

・即自存在と対自存在

即自…物の存在→自己同一性を有した状態…充足している

対自…意識の存在→「自己との一致に向かっての絶えざる超出」

　　　　　　　　　　　…　一致は永久に得られない

　　　　　　　　　　常に自己と一致しない状態において存在するように

　　　　　　　　　　自己規定…否定の概念を含む

対自存在の自己に対するあり方⇒現実の理想に対するあり方に類似

　　　　　対自→自己　　：　　　現実→理想

　　　　　　　（常に一致は得られない）

「実存は本質に先立つ」…デカルト的な実体としての精神（自我）の否定

　実存…人間の存在　　（本質は後から付いてくるもの）

* **メルロ・ポンティ**…対象構成における身体の役割を強調

　「図」（形として認識される）と「地」（背景として認識される）の交代

　　　　　　　　　　　　　　→アスペクトの交換　…身体図式が関わる

　　ex ルービンの壷←ゲシュタルト心理学

　「地」…身体図式（私の姿勢に対する包括的意識）

　　↑　　　　　　　　　　　ex 手と足の位置関係

　（物理的）空間　　　 　　　　視覚と聴覚との関係

　　　　 　　　　　　　　　　　内受容系と外受容系の関係

　（「図」として対象が構成される）

身体図式：　様々な感覚や運動を結びつける→一つの形態を浮かび上がらせる

　　　　　　あらゆる意味形成や習慣獲得の根源

○サルトル・メルロ＝ポンティ→レジスタンス運動に参加

　　　　　　　　　　　　　　（フランス・ＷＷⅡ）

1. 脳科学技術の歴史と現状

　自己意識→少し前まではもっぱら哲学によって扱われてきた

＜１９７０年代以降＞

* 脳機能イメージング→脳の活動の可視化

　　　　（画像化）

　　ex . ｆＭＲＩ（1990年代以降）

* 脳の活動への物理的介入

ex . ＢＭＩ…ブレイン・マシン・インタフェース

　　　　　　→脳の活動の操作

　　　　　　　脳の信号を読み出す

* 脳をつくる

　人工知能　〜　ヒューマノイド（人間型ロボット）

　　　　　　　　　←ｆＭＲＩなどの研究を利用

　　　　　　　　　　　　　　　　（サイボーグ…人間と機械の接合）

　　　心的プロセス　　　　　　神経的基盤

　　　（心理学・認知科学）　　（神経科学・脳科学）

　　　　　　　↓　　　　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　認知神経科学（学問領域）

　　　　　　　　　⇩

　　脳の可視化技術に注目…1970年代〜　ＰＥＴ

　　　　　　　　　　　　　1990年代〜　ｆＭＲＩ　が主流　…非侵襲性

　　　　　　　　　　　　　　　　（侵襲…体内への侵入、傷つけること）

（骨の可視化…19世紀末　Ｘ線の発明）

* 脳神経神話（…脳科学への過剰な期待）が危惧されている

　ex 脳科学の成果を利用した脳のトレーニング

* 脳機能の可視化

ブローカ（19c）の発見→脳機能の障害

　　　　　　　　　　　…失語症患者の死後解剖による病変部位の特定

脳を可視化する技術の始まり→気脳撮影法…患者に多大な負担がかかる

　　　　　　　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　　　　　　　ＣＴ…代わって普及

　　　　　　　　　　　　　　　　　Ｘ線を応用して脳の断面画像

* 二つの技術は共に静的な脳構造や状態の把握をするもの

生体の脳機能・脳の活動そのものを可視化する最初の技術

　（リアルタイム・反復可能）

　　　→ＰＥＴ…放射性物質を注入する侵襲性

　　　　　↓　解決

　　　　ｆＭＲＩ（ｆ…functional 脳機能の）

　　　　…脳血流の特性（BOLDコントラスト）を利用

　　　　　⇒非侵襲性…健常者にも使用可能

＜BOLDコントラスト＞

ニューロンの活性化→血流量増加→酸素ヘモグロビン増加→MRI信号が強まる

MRI信号の強弱で活性部位を特定

* ｆＭＲＩを用いて外向性・内向性など個人の性格や嘘を判断する研究

　⇒司法や犯罪捜査への応用？

問題：・脳活性部位の特定だけでは複雑な心理プロセスなどの神経的基盤の

　　　　解明には不十分

　　　・様々な部位によって活動がなされる

* 可視化された画像の一義的な解釈は危険

（マスコミが極端な脳画像を使用したりする）

　⇒ガルの骨相学の復活になりかねない

* 脳の活動に介入する技術

・投薬（向精神薬など）

・ＢＭＩ（ブレイン・マシン・インタフェース）

　→コーディング（信号化）

　→デコーディング（信号の解読）

＜ＢＭＩ技術＞

　人工内耳（コーディング）

　　音声→デジタル信号　…脳が処理できるものに変換

　脳とコンピュータ・機械の連結（デコーディング）

　　脳信号→解読→機械の操作

ＤＢＳ（Deep Brain Stimulation）…脳深部刺激

　→パーキンソン病の治療

　　難治性うつ病の治療にも効果？

脳神経の補綴（neuro prosthesis）

→損傷したニューロンの再建…人工海馬など

　　　　　　　　　　　　　　　（海馬…記憶に関わる）

* 脳（心）をつくる

　初期の人工知能研究（1950年代〜）

　　心＝記号処理という考え…プログラムの作成⇒心をつくる

　————　記号計算主義→行き詰まる

　　　　　　↓

* ニューラルネットワーク（コネクショニズム）

　→脳神経のネットワーク

…生体ニューロンをまねて人工ニューロンを作る

* 構成論的アプローチ（認知発達ロボティクス）　⇦日本で盛ん

…ロボット（身体を持つ）を実際に作り人間の脳（心）を理解する

　ロボットと環境のインタラクションに注目

（問題：自律型ロボットの道徳的地位は？）